

タイトル：ゴージャスお宝鑑定家

「うーん、ゴージャス！」33

登場人物

剛田・ゴージャスな品物しか鑑定しない剛田質店の店主。優雅で品がありすぎる振る舞いが特徴。「ゴージャス！」が口癖。**白金**・剛田質店の見習い鑑定士。常識的で神経質、剛田のテンションに振り回される。**来店客**▶・オパール製のインスタントカメラを持ち込む客。祖父が遺した品に深い思い出を持つ。**来店客**B・別のお宝を持ち込むが、剛田に断られる客。**ナレーション**・シーン間や説明を補足する役割。

第一幕

シーン： 剛田質店の朝

（剛田質店の店内。棚には絢爛豪華な品々が並んでいる。剛田がゆっくりと店内を歩きながらモットーを語る。）

剛田（優雅に）：「ゴージャスたるもの、優雅たれ……。この剛田質店に並ぶものは、ただの品物ではない。魂が宿る、輝きそ

のものだ……。ゴージャス！」（ポーズを決める）

白金（ため息）：「店主、朝からテンション高すぎませんか？お客さんが引きますよ。」

剛田：「引く？白金くん、ゴージャスというものは万人に理解されるものではないのだよ。高みを目指す者のみが、その価値を知る！」

白金（ぼそり）：「その高み、ついていくのが大変なんですけどね……。」

（ナレーションが入り、剛田質店の日常を説明する。）

ナレーション：「ここは剛田質店。ゴージャスな品物しか鑑定しない店主・剛田と、常識人の白金が営む店。今日も奇妙なお宝が舞い込んでくるのであった……。」

シーン②：来店客Aの登場

（店のベルが鳴る。来店客Aが緊張した様子で入ってくる。）

来店客A：「あの、これ：鑑定していただけですか？」

（カウンターにオパールでできたインスタントカメラを置く。キラキラと輝いている。）

剛田（目を輝かせて）：「うおお：これは！：う：う：ん、ゴージャス！」（ポーズを決める）

白金：「また始まった：。」

剛田（真剣な顔でカメラを持ち上げ）：「この光沢、この輝き：。オパール製のインスタントカメラだと！？いかにも時代を超越した一品：！だが：これはただのカメラではないな？」

来店客 ▶（少し戸惑いながら）：「じ、実は祖父が遺したもののんですが、彼は宝石細工師で：これが最後の作品だったんです。」

白金：「なるほど：。店主、本当に買い取るつもりですか？ただのカメラですよ？」

剛田：「ただのカメラ？ 白金くん、これをただのカメラと呼ぶとは：ゴージャスの感性が足りない！」

第二幕

シーン 3： 鑑定

（剛田がカメラを鑑定し始める。動作が
いちいち優雅で大げさ。）

剛田（慎重にカメラを構えながら）：「ま
ず、シャッター音からだ……。このカメラ
に宿る魂、その音色に込められた真髓を
確かめる！」

（カメラのシャッターを押す。響き渡る
音は、ただのカメラの音ではなく、美し
い鐘の音のようだ。）

剛田（感動し、両手を大きく広げる）：
「聞け！この音色！まるで天上の旋律が
舞い降りたかのようだ！この一瞬にこ
そゴージャスが宿るのだ！」

白金（耳を傾けつつ）：「え、ただのシ
ャッター音にしか聞こえませんが……？」

剛田（突然鋭く振り返り）：「白金くん！
その耳に宿る感性を研ぎ澄ませたまえ！
この音は単なる機械音ではない。まさに
芸術だ！」

来店客 ▶（少し圧倒されつつ）：「あの、
そこまで大きさに言われると：なんだか
恐縮しちゃいます：。」

（剛田がカメラを再び構え、今度は店内
の商品棚に向かって写真を撮る。写真が
現れると、棚の品々が異常に豪華に輝い
て見える。）

白金（写真を覗き込み、驚愕する）：「な、
なんだこれ！？実物より何倍もゴージャ
スに写ってるじゃないですか！このカメ
ラ、本当に普通じゃない！」

剛田（写真を掲げながら熱弁する）：「こ
れがオパール之力！希望と純真の象徴で
あるオパールが、このカメラに未来の光
を宿しているのだ！」

白金（呆然としながら）：「まさか、写
真でここまで変わるなんて：。これ、詐
欺的な使い方とかさねないですよね？」

剛田（厳かに頷き）：「違う！これは心を豊かにする道具だ！見る者の魂を輝かせ、持つ者の人生をも変える…！これぞゴージャス！」

来店客 ▶（涙ぐみながら）：「祖父がそんな想いで作ったものだなんて…。これを理解してくださる方がいて、本当に嬉しいです！」

（剛田が真剣な表情でカメラを置き、両手を胸に当てる。）

剛田：「我が剛田質店は、この品を心から歓迎する！だが、その前に、価格を決めねばならぬ…！」

シーン④：価格交渉

剛田（厳粛に）：「さて、このゴージャスな品を我が店に迎え入れるには、それ相応の代価が必要だ。」

来店客▶（緊張して）：「い、いくらで買い取っていただけますか？」

剛田：「この品の価値は：プライスレス！
だが、現実世界では：うーん、200万だ！」

白金（驚いて）：「200万！？店主、そんなに出して大丈夫ですか！？」

剛田：「白金くん、ゴージャスに値段はないのだよ。これもまた、我が店の未来への投資だ！」

来店客▶（感激して涙ぐみながら）：「ほ、本当にありがとうございます！」

（取引が成立し、来店客▶が去る。）

第三幕

シーン5: エピローグ

(カメラが店のショーケースに飾られている。剛田が自撮りを繰り返している。)

剛田：「見よ、この輝き！そして、この私！ああ、なんてゴージャスなんだ！」(剛田がポーズを決める。)

白金(ついに怒り爆発)：「店主！いい加減にしてください！自撮りばかりしてたら、他の品物の手入れが疎かになりますよ！」

剛田(しゅんとしつつ)：「ゴージャスの追求が過ぎたか？」

白金(ため息)：「まったく……。でも、まあ店主らしいですけどね。」

（店内が明るいき光に包まれ、幕が下りる。）

ナレーション：「こうして、剛田質店には今日も新たなゴージャスが生まれ続けるのであった…。」

第一幕：導入（約20分）

1.

シーン1：剛田質店の朝（約5分）

2.

1. 剛田と白金の掛け合い。剛田質店

の理念や雰囲気を見聴者に提示。剛田のゴージャスっぷりを強調。

2. 店の豪華なディスプレイや二人の性格を描写。

3.

シーン2: 来店客Aの登場（約10分）

- 4.
1. 来店客Aがオパール製のカメラを持ち込み、剛田が鑑定に興味を示す。
2. 客の背景（祖父の遺品であること）と剛田の第一印象を細かく描写。
3. 剛田の「ゴージャス！」なリアクションを増やしてテンポアップ。
- 5.

シーン3: 鑑定（約5分）

- 6.
1. 剛田がカメラを操作し、その特性（写真がゴージャスに映るなど）を発見。
2. オパールの石言葉を熱弁し、剛田の哲学的な一面を強調。

第二幕：物語の展開（約35分）

1.

シーンA：価格交渉と来店客Bの登場（約15分）

2.

1. 来店客 A との交渉で剛田が 200 万円を提示。白金が驚愕しつとも納得する流れ。

2. 同時に、別のお客（来店客 B）が入店し、剛田のゴージャス基準により品物を断られるコミカルなエピソードを追加。

3.

シーン 5: 実演（約 10 分）

4.

1. 剛田がカメラの魅力をさらにアピールするため、白金や来店客を巻き込んで写真を撮るシーン。

2. 写真に映ったゴージャスな効果に皆が驚き、剛田のテンションがさらに上がる。

5.

シーン 6: 剛田と白金の価値観の対立 (約 10分)

6.

1. 剛田の「ゴージャス最優先」の姿

勢と、白金の「実用性や常識を重視する」意見が対立。

2. コミカルにぶつかりながらも、お

互いの価値観を少しずつ理解する

場面を挿入。

第三幕：クライマックスと結末（約
25分）

1.

シーン①：来店客④のエピソードの
締め（約10分）

2.

1. 来店客Aが剛田の言葉やカメラの価値に感激し、祖父の思い出と向き合う。

2. 剛田が「品物の本当の価値」を説きながら、カメラを大切にしよう伝える。

3.

シーン8: エピローグ (約15分)

4.

1. 剛田が店内で自撮りを繰り返し、白金に一喝されるコメディタッチの締め。

2. ショーケースに並んだカメラを見ながら、剛田と白金が未来のゴージャスを語る。